

鳥取県中部地域の玄関口として

“まちづくり”の新たな拠点 重点「道の駅」^{こと}琴の浦^{うら} のご紹介

国土交通省 中国地方整備局 倉吉河川国道事務所

1. はじめに

「道の駅」は、“休憩機能”“情報発信機能”“地域連携機能”の3つの機能を合わせ持つ休憩施設として、平成5年に登録制度が始まり、現在、全国で1,117駅（平成29年4月21日時点）が登録されています。

当初は、ドライバーの休憩機能が主目的だったものが、今では「道の駅」自体が主目的となり、「まち」の特産品や観光資源を活かして「ひと」を呼び込み、地域に「しごと」を生み出す「地方創生」の拠点として進化を遂げています。

更に近年は、災害時において被災者支援や広域応援の拠点としての役割を果たしているほか、平成28年度に選定された住民サービス部門モデル「道の駅」のように、高齢化社会に対応した地域福祉向上や住民生活支援の取り組みなど、地域に欠かせない施設としてその役割は益々多様化しています。

鳥取県では、平成5年4月に道の駅「大栄」が第1回目で登録されて以降、現在では、東部地域に5箇所、中部地域に8箇所、西部地域に3箇所と、合計16箇所の「道の駅」が登録されています。

今回は、平成29年4月末に鳥取県内16駅目の「道の駅」として鳥取県中部地域に新たに誕生した、道の駅「琴の浦」の取り組みについてご紹介します。



図1 鳥取県内「道の駅」位置図

2. 取り組みの経緯

琴浦町は、鳥取県のほぼ中央に位置する人口約1.8万人の農業・漁業・商工業が盛んな町であり、他の地方都市と同様少子高齢化や雇用を求めての若者の県外流出等により、人口減少が深刻化しています。加えて、町内の中心部を貫く幹線道路である一般国道9号の自動車専用道路B Pである山陰自動車道（以下山陰道」という。）が整備された事により、現国道9号の交通量が大幅に減少しました。そのため、沿線の飲食店やコンビニなど商業施設の閉店も生じており、沿線の事業者等で連携し様々な取り組みを進めていますが、期待する効果が出ていない状況でした。

一方山陰道を管理する国土交通省としては、鳥取県中西部の山陰道本線上に道路情報提供や休憩をする施設が少ないことから、道路利用者の利便性向上のため、その機能を強化する必要がありました。

このような中、平成26年8月に「道の駅」を地方創生の拠点とする先駆的な取り組みをモデル箇所として選定し、関係機関が連携して計画段階から総合的に支援する『重点「道の駅」』の制度が創設されたのを機に、山陰道琴浦パーキングを「道の駅」としてリニューアルを図るとともに、既存施設の「物産館ことうら」「道の駅「ポート赤碕」と連携して新たなまちづくりの拠点とする取り組みをはじめました。



(※ 機能を兼ねるタイプも想定)



写真1 ゲートウェイ型道の駅「琴の浦」
(山陰道沿いにある「道の駅」)



写真2 地域センター型道の駅「ポート赤碕」
(現道沿いにある既存「道の駅」)

3. 重点道の駅「琴の浦」の取り組み概要

『地域の特産品を活かした産業振興「道の駅」』として平成27年度の重点「道の駅」に選定された道の駅「琴の浦」の取り組み概要について紹介します。

(1) コンセプト

- 山陰道整備後、現道沿線の活力が衰退する中、観光交流情報提供窓口を設置して、地域の住民活動と

も連動したホスピタリティ“おもてなし力”向上を図る。

- 山陰道に直結する地域内外の交流拠点としての情報発信力や観光誘客力を高め、既存の地域センター型「道の駅」等との連携により、当地ならではの食素材（魚・牛乳・和牛）を活用した「琴浦ブランド」の確立に向けた地産地消を推進し、地域活力の増進を図る。

(2) ポイント

- 近接する、山陰道に直結する新設「道の駅」と現道国道9号沿いの既存「道の駅」が、それぞれ異なる機能を活かしながら、一つの運営組織で一体的に地域活性化を行う。

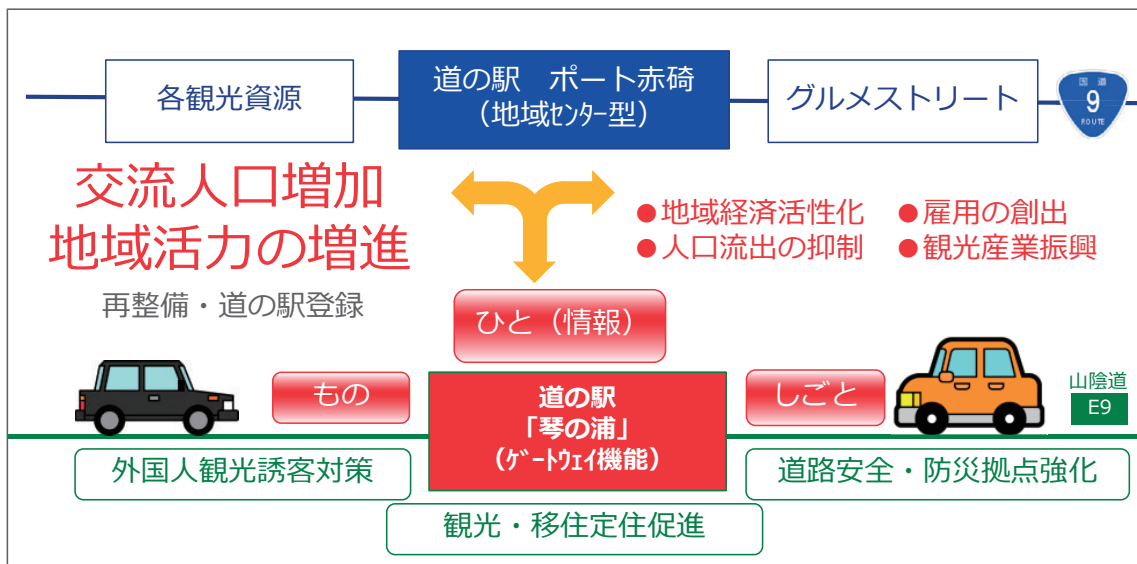


図2 近接した2つの道の駅の連携イメージ

- 道の駅「琴の浦」に観光協会、移住定住窓口を設置し、専属で人員が常駐し、町内観光案内や既存「道の駅」への誘導のほか、移住・就労支援の窓口となり、町外からのゲートウェイ機能を担う。



写真3 情報提供施設棟に設置された観光協会と移住定住窓口



写真4 情報提供施設棟に設置された道路情報提供施設

- 既存「道の駅」は、地域センターとして移動販売など地域住民の生活利便性向上を担うとともに、NPOとも連携し地域の新鮮な食材を活用した「琴浦ブランド」を確立、6次産業を推進する。

■道の駅「ポート赤碕」(地元中心の地域センター型)



写真5 鮮魚市場



写真6 移動販売所

■琴浦グルメストリートの活動状況(琴浦ブランドの核)



写真7 グルメウォークイベント



写真8 スイーツ試食記者会見

■道の駅を中心として半径1kmの拠点化を図る。



5. 今後の取り組み

琴浦町における「道の駅」を新たな拠点としたまちづくりの取り組みは始まったばかりです。

現在、道の駅「琴の浦」と道の駅「ポート赤碕」を接続するための町道整備が行われており、二つの「道の駅」がつながることにより相乗効果が出て、両「道の駅」の賑わいが琴浦町全体に広がっていく事が期待されます。

今後は、琴浦町内での連携にとどまらず、鳥取県中部の「道の駅」、更には鳥取県内の全「道の駅」で周遊観光や各種情報発信等において連携した取り組みを展開していく予定です。

6. おわりに

今年は、平成5年に「道の駅」の登録制度が始まって25年経過し、四半世紀という節目の年です。「鉄道にも駅があるように、道路にも駅があってもいいのでは」、平成2年1月、広島市内のプレシンポジウムでの言葉から「道の駅」が生まれたと聞いております。

平成29年10月、第6回全国「道の駅」連絡会総会・シンポジウムは、「道の駅」発祥の地と言われる中国地方の鳥取県倉吉市・三朝町で開催されます。

「道の駅」の登録制度が始まって四半世紀を迎える「倉吉・三朝大会」は、人口減少・少子高齢化の進行が加速する中で、今後の「道の駅」のあり方を展望するとともに、「道の駅」に携わる関係者がその連携を深め新たな活動や質的向上への取組を一層進化する契機となることを目的として開催します。

みなさん、倉吉・三朝でお待ちしておりますので、是非お越し下さい。